

図書館だより

No.
04
2026.04

新緑の心田庵（長崎市）

もくじ

「薄くてすぐ読める岩波文庫のお薦め3冊」

学長 浅田 和伸 ————— 02

教員寄稿

『『無私日本人』』

国際経営学科 矢野 生子 ————— 03

「失敗する組織、成功する組織。違いはどこから生まれるのか」

実践経済学科 岡本 洋幸 ————— 03

「生きることへの愛」

国際社会学科 門部 昌志 ————— 04

「AI 時代を切り拓く、自律的な学びの姿勢を」

情報セキュリティ学科 一色 寿幸 ————— 04

佐世保校図書館コーナー

「長崎を第二のふるさとに」

佐世保校附属図書館長 網 辰幸 ————— 05

シーボルト校図書館コーナー

「知の迷宮探索への誘い（その3）」

～「公共財」である情報を集積する公共空間としての図書館～

シーボルト校附属図書館長 河又 貴洋 ————— 06

図書館利用状況（R7.4.1～8.3.31）————— 08



薄くてすぐ読める岩波文庫のお薦め3冊

浅田 和伸（学長）

◇これまでに紹介した本をもう一度

「図書館だより」には毎年書かせていただいています。これまでに紹介したのは

- (1)私自身が大学時代に最も衝撃を受けた本
『ドストエーフスキー覚書』（森有正、筑摩書房）
- (2)研究や研究者の面白さがたっぷり味える
『ゴキブリ・マイウェイ』（大崎遥花、山と溪谷社）
『バッタを倒しにアフリカへ』（前野ウルド浩太郎、光文社新書）
- (3)レポートや卒論の書き方を早く身につけて欲しいという期待（下心）を込めた
『これからレポート・卒論を書く若者のために』（酒井聡樹、共立出版）
- (4)せっかく長崎の大学にいるのだから歴史にも関心を持って欲しくて
『きけわだつみのこえ』（日本戦没学生記念会、岩波文庫）などでした。

そのあとの図書館での貸出の状況を見ると、一番読んでもらったのは(2)かな……。(1)はさておき、他は今でも皆さんにお薦めしたいです。(3)は他の類書でも構いません。

◇人気は度外視！ずっと大事にしてきた本

今回は、皆さんに受けそうかどうかは考えません。私がこれまで10回以上引越をし、大量に持っていた蔵書をほとんど処分した今でも大事に手元に置き続けている本を紹介します。硬そう、つまらなそう、と思われてもいいです。でも、どれも、生涯で一度は読む値打ちがあります。特に若いうちに。

①私の「岩波文庫3点セット」

岩波文庫は、時代を超えて読み継がれる古典を数多く収めています。その中でも私がずっと持ち歩き、時々読み返すのが次の3冊です。どれも薄いし（特に南洲）、全編通しでなく拾い読みもできます。

『西郷南洲遺訓』（山田済斎編）

『武士道』（新渡戸稲造）

『代表的日本人』（内村鑑三）

座右の銘のように暗記している言葉や、講演などでよく引用、紹介する言葉もあります。

②生き方に関する金言の宝庫『言志四録』

こちらは講談社学術文庫。思想、歴史などの学術書（といっても読みやすいものも多いです。）を文庫で読めます。特に好きなのが、江戸時代の儒学者、佐藤一斎が遺した書に、工学者である訳注者が機知に富む補足を加えた次の本。楽しく読めます。

『言志録』『言志後録』『言志晩録』『言志叢録』（佐藤一斎著、川上正光全訳注。4冊まとめて「言志四録」と呼ばれます。）

①や②から、皆さんもきっと、お気に入りの言葉を見つけられますよ。

◇「好きなものは好き」でいい

③最後に、今の人にはあまり受けないんだろうなと思いつつ、小説も付け加えます。

学生時代、私の読書の仕方は、気に入った作家の作品（当時、文庫で出ていたもの）を片っ端から全部読む、というものでした。太宰治、坂口安吾、夏目漱石、芥川龍之介、三島由紀夫、川端康成、立原正秋、宮沢賢治、向田邦子、筒井康隆、星新一、ドストエーフスキー、ニーチェなど、大勢の作家や思想家の本を、このやり方で読破しました。

分厚いもの（例えばドストエーフスキー『カラマーゾフの兄弟』）はさすがにもう読み返さないといい処分しましたが、太宰治『人間失格』、向田邦子『思い出トラップ』、筒井康隆『俗物図鑑』（これはかなり分厚いですが、捨てられません。最初に読んだのは大学の社会学の授業で課題図書に指定されたから。それが運命的な出会いになることもあるんですよ。）などは今でもときどき読み返します。『人間失格』は10回以上読んでいます。必ずです。

他には、ニーチェ『善悪の彼岸』や芥川龍之介『侏儒の言葉』などの箴言（教訓になる短い言葉）の部分を読み返すこともあります。

時代によって読まれる本も変わっていくのでしょうか。私は流行についていけないのかもしれませんが、でも、好きなものは好き。それでいいと思っています。

教員寄稿



作者：磯田道史 出版社：文芸春秋社 発売日：2015年6月1日

『無私の日本人』

国際経営学科 矢野 生子

皆さんに是非、お勧めしたいのが『無私の日本人』です。日本人の精神性や価値観を深く掘り下げた、非常に示唆に富む一冊となっています。この本の作者である磯田氏は歴史学者であり、日本人が長い歴史の中で培ってきた「無私」の精神、すなわち自己犠牲や他者への奉仕の精神を中心に、日本文化の根底に流れる価値観を多角的に考察しています。

『無私の日本人』は江戸時代に清廉な生き方を貫いた3人（穀田屋十三郎、中根東里、大田垣蓮月）を描いた評伝（実話）です。特に、穀田屋十三郎の話は2016年5月に映画化された「殿、利息でござる！」の原作となっています。もしよければ、映画を見てからこの原作を読むとより理解が深まるかもしれません。映画はコメディタッチとなっていますが、最後は感動的な結末を迎えます。

簡単に説明すると、仙台藩の貧しい街道沿いの宿場町である吉田宿では宿場町間の物資の輸送を行う「伝馬役」が課せられていました。しかし、その費用負担があまりにも重いため、住民の生活は困窮し、破産者や夜逃げ者が相次ぐ有様でした。その窮状を見かねた穀田屋十三郎は同志達と大金を集め、それを仙台藩に貸付け、その利子で「伝馬役」の費用を賄おうとする秘策を考えます。しかし、そう簡単に行くものではなく、何度も何度も挫折しながら最終的には仙台藩に大金を貸付け、吉田宿を救うことに成功します。しかし、穀田屋十三郎は子孫に対して、この話を美談として後世に広めることを禁じます。そのため、この話は実話でありながら、広く知られることは無かったのです。

大学生の皆さんにとって、この本は日本文化や社会の理解を深めるだけでなく、自身の価値観や生き方を見つめ直すきっかけとなるとと思います。特に、グローバル化や多様性が進む現代において、他者への思いやりや協力の精神は、ますます重要性を増しています。本書を通じて「無私」の精神が持つ奥深さやその現代的な意義について是非考えてみてください。



失敗する組織、成功する組織。 違いはどこから生まれるのか

実践経済学科 岡本 洋幸

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」。これは、平戸藩主・松浦静山（1760～1841年）の言葉です。成功には必ずしも理由があるとは限らないが、失敗には必ず理由があることを示しています。約80年前の大東亜戦争では、日本軍は完敗に近い形で敗れました。負けた理由を外国と日本の国力差ではなく、日本軍の組織特性や欠陥に求めたのが『失敗の本質—日本軍の組織論的研究』（ダイヤモンド社）です。

同書では、日本軍の組織特性として、人間関係や根回しに依存しがちで、集団の空気に流されやすく、楽観的な見通しのもとで判断する傾向があったとしています。そのうえで、欠陥として、作戦目的が曖昧で、陸軍と海軍を統合して動かす仕組みが弱く、都合の悪い情報ほど上層部に届きにくいことなどを指摘しています。これらの点から、失敗から学ぶことが難しい組織だったと述べています。

みなさんが社会人になって働くようになると、こうした問題に少なからず直面します。過去の戦争を扱った本ですが、ここで描かれる組織の弱さや意思決定のゆがみは、現代の組織にも通じるものがあります。この本を通して、私たちが陥りやすい思考や行動の特徴を理解しておくことには意味があります。こうした学びは、VUCAと呼ばれる不確実な時代に対応する力を高めるとともに、組織や地域社会をよりよくしていくためのヒントになります。

心に残る本に出会ったら、その本をもとに勉強会を開催してはどうでしょうか。社会人になると、仕事以外の場で新しい仲間を見つけることは簡単ではありません。だからこそ、本は共通の問題意識を持つ人同士の接点になります。『失敗の本質』は、行政や財界のトップの多くが推薦書として挙げる一冊でもあります。本は新たな学びをもたらすとともに、人との出会いのきっかけにもなります。



生きることへの愛

国際社会学科 門部 昌志

年末を南仏の別荘で過ごしたアルベール・カミュは、車でパリに戻るつもりだった。昼食後に出発し、パリまであと 100 キロメートルの地点で車が木に衝突、彼は即死した (1)。

事故の後、彼の鞆から草稿が発見された。それは、死後 34 年後の 1994 年に『最初の人間』として刊行される (2)。第 1 部は「父親の探索」、第 2 部は「息子あるいは最初の人間」である。残された草稿は、第 1 部の 7 章と第 2 部の 2 章だけであった。

カミュの作品には、『異邦人』などの「不条理」の系列と『ペスト』などの「反抗」の系列がある。未完の自伝的小説、『最初の人間』は「愛」を主題とする第 3 の系列に属する。そこでは「家族の愛、故郷への愛、民族共存を可能にする愛」が断片的に描かれている。中心は母である。「カミュが愛していた人々」とは、「母や家族、父のような「叔父」、「先生」、「友人たち」、「恋人たち」である。その愛は、カミュが成長した地区、町、「アルジェリアへの愛」に通じる。アルジェリア戦争が激しさを増す時代に書かれた『最初の人間』では、「故郷への愛」が明かされるはずだったが、未完の草稿では十分に描かれていない (3)。

カミュは、早期から「不条理」や「反抗」の先を考えていた。「不条理」前の作品でも「愛」が扱われていたのである。例えば、23 歳の時に出版したエッセイ集『裏と表』では、「生きることへの絶望なくして、生きることへの愛はない」と述べられている。また、結核との闘病は、絶望のみならず生への熱烈な愛をもたらした。本書は、「生きることへの愛」という視点からカミュの生涯と作品を読み直す試みである。

注

(1) 三野博司『アルベール・カミュ——生きることへの愛』岩波新書、2024 年、189 頁。

(2) 同書、193 頁。1994 年版には邦訳があるが、新版の邦訳は未刊行である。

(3) 同書、204 頁。

「AI 時代を切り拓く、自律的な学びの姿勢を」

情報セキュリティ学科 一色 寿幸

入学、進級、おめでとうございます。大学生に本を紹介せよといわれて、真っ先に浮かんだ本である外山滋比古氏の名著『思考の整理学』をご紹介します。

大学の講義を「座っていれば、わかるまで誰かが丁寧に教えてくれるもの」と考えているのなら、それは誤解と言わざるを得ません。講義を真の意味で自分のものにするためには、高校までの受動的な学びを卒業し、自ら主体的に考え、発展させていく学びへと転換する必要があります。本書は、そのための最良の指針となります。

本書では、知識を単に受け取るだけの「グライダー型」人間に対し、知識を自らのエネルギーに変えて飛び立つ「飛行機型」人間になる重要性を説いています。グライダーは、教師や教科書という牽引車がなければ浮上できません。膨大な知識を AI が瞬時に提示してくれる現代において、与えられた正解をなぞるだけの「優秀なグライダー」は、真っ先に AI に取って代わられる存在となるでしょう。だからこそ人間は、単なる知識の蓄積を超え、自ら社会の課題を見出し、答えを導き出すことができる「飛行機」になる必要があります。

飛行機になるためには、大学の講義で得られた知識を自分なりの知恵に昇華させるプロセスが欠かせません。本書では、知識をただ記憶（貯蔵）するのではなく、自分の中で反芻し、時間をかけて馴染ませることで発酵させ、知恵に昇華させることの重要性を説いています。机に向かっていないリラックスした時間やふとした日常の瞬間に、かつて講義で得られた知識の断片が繋がり、革新的なアイデアとして結実することがあります。今は一見無関係に思える知識が、将来の自分を助ける重要な素材になりうるのです。

知識を使いこなす術を学ぶこと。それこそが、AI 時代を生き抜くために必要なことではないでしょうか。自らのエンジンで飛翔する「飛行機」となり、広い世界へと力強く飛び立ってください。

佐世保校図書館コーナー

長崎を第二のふるさとに

佐世保校附属図書館長 綱 辰幸



「創造と伝統」 川喜田二郎著 祥伝社

1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

受験勉強は終わり、多くの皆さんは、これからは新しい土地で、それぞれの学部学科の専門的な学びに出会うことになるでしょう。

大学での学びは高校時代の学びと大きく異なっています。高校時代の学びでは、授業で習ったことを正確に覚えて、その知識をテストなどの結果で示すことが求められていました。

大学での学びでは、自ら積極的に、いろいろな学問を学び、またデータ分析して、例えば卒業論文などの形で、それまでになかった自分なりの考えを上げることが求められます。つまり、大学で求められる学びは「創造」である、ということもできるでしょう。

KJ法の創始者として知られる川喜田二郎は、著書『創造と伝統』の中で、創造について次のように述べています。「創造とは……『ひと仕事やってのける』ということで、創造性とは『ひと仕事やってのける能力を持つこと』。また別の個所では、「創造とは問題解決なり」また「創造性とは問題解決の能力」とも述べています。

長崎県も、県が「長崎県は日本の課題先進県」というように、交通空白地域やいわゆる「買物難民」など高齢化、人口減少に伴うさまざまな問題を抱えているのが現状です。ただ、それらの問題は、地域や身近な課題とは限りません。それぞれの専門的分野においても、解決すべき課題は数多く存在します。例えばAI（Artificial Intelligence）分野には、半導体などの技術的課題だけでなく、活用に伴う倫理の問題、著作権などの法的問題、さらにはデータセンターの立地といった社会的課題まで、さまざまな問題が存在しています。

大学では、こうした多様な問題・課題について、これまでになかった自分なりの新しい「答え」を導き出しながら、ぜひ、「ひと仕事やってのける」経験に取り組んでいただきたいと思います。

でも、「何を、どこから、どう始めればよいのか」と戸惑うこともあるかもしれません。そのために大学の

授業があります。大学の授業を受ければ、各学科の専門科目で必要な知識を深めることができるだけではなく、広い視野を養ったり、学外での実践的な経験を積むこともできます。さらには、国内外から集まった仲間と課題を共有し、ともに学び合い、協力して課題解決に進むこともできます。授業やオフィスアワーの時間に教員から専門的な指導を受けることもできます。さらに、図書館では、書籍や論文などの豊富な知見や最新のデータにも触れることができます。大学にない資料は取り寄せることもできます。

こうした環境の中で、在学中に、自分なりの「ひと仕事」を一つ完成させてください。そして、次の課題にも挑戦できる力を身につけてほしいと思います。

ひと仕事やって作り上げた論文や研究成果、作品などは、単なる個人の成果にとどまりません。その課程で、計画を立てる力や、目標達成のために何が必要かを考える力が養われ、そのようなことは自分自身の成長にもつながります。これらの力は、変化の激しい今の時代には、社会に出てからも必ず役立つでしょう。

また川喜田は、同書の中で次のようにも述べています。

「『ふるさと』とは、子どもから大人になる途中で、子どもながらに全力傾注で創造的行為を行ない、それをいくつか達成した、そういう達成体験が累積した場所だから、『ふるさと』になったのだ」。「人間というのは、自分が最も創造的に行動した……そこが第二のふるさとになる」。

ぜひ、長崎にある皆さんそれぞれのキャンパス（佐世保・長与）を、皆さんにとっての「第二のふるさと」としてください。

シーボルト校図書館コーナー

知の迷宮探索への誘い（その3）

～「公共財」である情報を集積する公共空間としての図書館～

シーボルト校附属図書館長 河又 貴洋

今回は図書館を「情報（知識、知恵を含む）」の特性から「公共性」について考えてみたいと思います。まず、情報自体はどのようにして取引されるでしょうか？ 口頭で、書き物で、印刷されたもので、電子化されたもので……音声、文字、画像、映像といったコンテンツとしての情報がある媒体（メディア：音がライブあるいは録音されたものや文字がテキスト化、静物や動体がビジュアル化されたもの）を介して取引されます。それらを「情報財（information goods）」と言います。そして、これらには①容易に1つの媒体から別の媒体への記録または複製が可能であり、②複製を行うのに元の財の生産に投入されたほどの資源量は必要とせず（限界費用がゼロに等しい）、③複製の価値は元の財と比較して差がない、という特性があります。その典型的なモノが、書籍であり、印刷は複製（コピー）することであり、紙を媒体とする複製物が商品（財、goods）として取引（売買）されます。今日ではそれもデジタル化された情報がネットワークを介して複製・取引される電子ブックのかたちで流通し、限界費用ゼロでコピーができるので著作権を侵害した取引を罰する法的措置もとられるようになってきています。

情報財の特徴は、「公共財（public goods）」の特性とも類似するものです。公共財の特性は「排除不可能性」と「非競合性」にあります。前者はある人の利用を妨げることができないという財の性質で、後者はある人が利用しても他の人の利用できる量が減少しない財の性質です。正に、情報は他者を排除せず（ただし、「理解」という壁は存在しますが）、他者と競合もしないものです。そこには「フリーライド（ただ乗り）」の問題が発生しかねません。つまり、自分では情報を生産せずに他人の情報を利用してれば、

コストがかからないので誰も情報を生産しようとしなくなるのではないかと、またはせつかくコストをかけて情報を生産したのにそのコストを回収できないという問題が起こります。そこで考え出されたのが知的財産権（特許、著作権等）であり、情報の生産者に複製を認める（複製させない）権利（copyright）を与えようという人為的な法律を定めているところです。

しかしそうすると、その情報は誰にも伝わらなくなってしまうのではないかと、ということが危惧されます。情報にはそれを共有することによって価値が生まれるものでもあります。ここに、「公共的知識（public knowledge）」（公共性を有する知識として、公衆に利用される知識）の問題があり、知識が公衆に共有されるために、その知識を記録するメディア（情報財）を収集・蓄積・体系化して流通させる社会的装置としての図書館が必要とされるところです¹。また、それゆえにそれらの多くが公立であったり、大学という専門的知識を有する専門家を介しながらも社会的に還元・共有され、多くの人に利用される必要もあります。そして、このことは「個人的無知（private ignorance）」を前提とし、それを解消していく場として、図書館の必要性があります。さらに、公共的知識を共有しながら、相互に交流して新たな知識を創造する場の大学において図書館はコミュニケーションの場でもあります。

今回、図書館の公共性にかかわり、最後に図書館のあり得る（べき）姿を映したドキュメンタリー映画と、図書館をめぐる「公共性」とは何かを考えさせられる映画を紹介したいと思います。皆さんも「公共性」について考え、コミュニケーションする場として図書館を活用していただければと思います。

- ▶ Wiseman, Frederick *dir.* (2017) *Ex Libris: The New York Public Library*, EX LIBRIS Films LLC.
(フレデリック・ワイズマン監督・録音・編集・製作『ニューヨーク公共図書館』ポニーキャニオン, 2020 年 [DVD])²
- ▶ Estevez, Emilio *dir.* (2019) *The Public*, EL CAMINO LLC
(エミリオ・エステベス監督・脚本・製作『パブリック: 図書館の奇跡』バップ, 2021 年 [DVD])



『ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス』
デジタル配信中／ブルーレイ & DVD 発売中
ブルーレイ: ¥7,480 (税込) / DVD: ¥6,380 (税込)
発売・販売元: ポニーキャニオン
© 2017 EX LIBRIS Films LLC - All Rights Reserved



『パブリック図書館の奇跡』
Blu-ray & DVD 発売中
発売・販売元: VAP
© EL CAMINO LLC. ALL RIGHTS RESERVED.

¹ 「知の公共性」については、Wilson, Patrick (1977) *Public Knowledge, Private Ignorance: Toward a Library and Information Policy* (Contributions in Librarianship and Information Science), Greenwood Press. (パトリック・ウィルソン 著／齋藤泰則訳『知の公共性と図書館—公共的知識と個人的無知の対比』丸善出版, 2025 年) を参照のこと。

² 原題の“*Ex Libris*”とは「蔵書票」と訳されますが、貴重で高価であった書物を愛する人たちの印ともいえる映画タイトルとなっています。



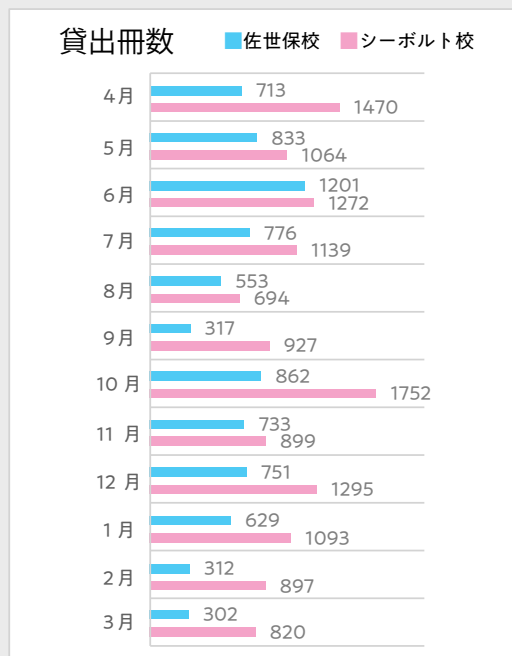
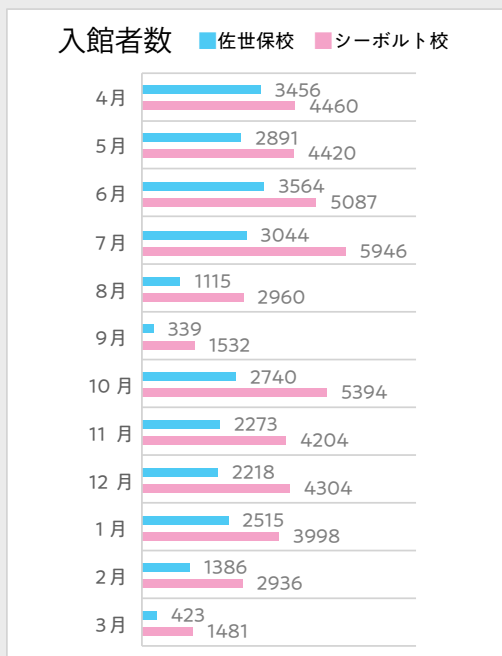
図書館利用状況

(R7.4.1 ~ R8.3.31)



入館者数及び貸出冊数

※入館者数、貸出冊数：学生、教職員、外部利用者全ての合計です。



貸出資料ランキング

■ 佐世保校

- 1 日経経済知力テスト公式テキスト&問題集／日本経済新聞社編 2025-26年版
- 2 世界流通史／谷澤毅著
- 3 地域再生の産業観光論：やきもの産地のコト消費とモノ消費／竹田英司著 = Industrial
- 4 カフネ／阿部暁子著
- 5 インバウンドの消費促進と地域経済活性化：育て、磨き、輝かせる／日本交通公社編著
- 6 小さな会社のインバウンド売上げ増計画：54の「やるべきこと」と「やってはいけないこと」／村山慶輔著
- 7 農業経済学／荏開津典生、鈴木宜弘著
- 8 アルプス席の母／早見和真著
- 8 謎の香りはパン屋から／土屋ふさぎ著
- 8 汝、星のごとく／風良ゆう著

■ シーボルト校

- 1 TOEIC L&R テスト文法問題で 1000 問／TEX 加藤著
- 2 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集／ETS 著 10
- 3 公式 TOEIC listening & reading 問題集／ETS 著
- 4 マルチユーザ MIMO の基礎／西森健太郎著
- 5 強みと弱みからみた在宅看護過程＋総合的機能関連図／河野あゆみ編集：草場鉄周編集協力
- 6 公式 TOEIC listening & reading 問題集／Educational Testi
- 7 レイニンガー看護論：文化ケアの多様性と普遍性／マデリン M. レイニンガー著
- 7 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集／ETS 著 7
- 9 MATLAB によるデジタル無線通信技術／神谷幸宏著
- 10 公式 TOEIC Listening & Reading 問題集／ETS 著 12

佐世保校附属図書館
〒 858-8580 佐世保市川下町 123
TEL.0956-47-2191 (代表)
<https://sun.ac.jp/center/lib/sasebo/>

シーボルト校附属図書館
〒 851-2195 西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1
TEL.095-813-5500 (代表)
<https://sun.ac.jp/center/lib/siebold/>

開館時間

平 日：午前 9 時～午後 9 時まで (学生の休業期間中は午前 9 時～午後 5 時まで)
土曜日：午前 9 時～午後 5 時まで 休館日：日曜日・祝日・大学閉校日など

